教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

ニューズ・レター No.126

JSiSE

発行日　2003年11月30日
発行所　教育システム情報学会
発行者　岡本敏雄

・661-8520　尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
・06-4961-6507　FAX06-4961-6508
http://www.jsise.org/
E-mail:secretariat@jsise.org

e-Learning に関するドイツ・日本ワークショップ報告

ワークショップ委員長　　岡本敏雄（教育システム情報学会会長）

１．はじめに

インターネットを中心とした情報通信技術の発展は、まさに知識社会革命の大きな駆動力となっている。多くの国々が、健全な民主主義社会を構築し発展し続けるための重要な課題として教育がある。自国のみならず広く地域社会において、健全で有為な人材を育成することは必須である。そういった大きな社会の流れの中で、e-Learning の可能性、必要性が認識され始め、様々な教育的、技術的、そして政策的な活動がなされている。

このような認識にたって、今回、ドイツ語圏の国々と日本とが共同の e-Learning に関するワークショップを開催した。このワークショップは、学術的な内容のみならず、経済・産業、社会・教育制度、地域社会文化といった観点からも総合的に議論し、健全な社会建設のための認識、方策を共有し、将来の方向性を見定めることを目的として開催された。

２．ワークショップの骨組みと内容

去る９月８日から９日の２日間、ドイツ・ベルリンで e-Learning に関するドイツ・日本との間でジョイント・ワークショップが開催された。正式な名称は、“ The Joint Workshop of Cognition and Learning　Through Media-Communication for Advanced e-Learning ”である。会場は日独センター・ベルリンであり、約８０名の参加者があった（内訳は、日本から約３２名、ドイツ語圏から約３７名、そしてドイツから実行委員会委員およびパネリスト含めて約 10 名）。一般発表件数 48 件で、様々な観点からの発表があった。そして e-Learning と教育の改革・促進に関するポリシー・パネル討論があった。

次ページへつづく

研究発表では，工学と認知科学の両分野において，４時間のセッションが計６本設定され，各々のテーマは「学習環境」「学習プロセスと戦略」「学習者モデル」「学習オブジェクト」「協調学習（２セッション）」であった.

パネル討論は 9 日の午後に行われた。総合司会を岡本敏雄（教育システム情報学会会長）が行い、パネリストとして、ドイツから Dietrich Albert 教授、Hartmut Krebs 科学・研究省副大臣、Axel Zerdick 自由大学副学長、Daniel Dirks 博士（Allianz AG)、Herbert Muller Philipps Sohn 教授、日本から西之園晴夫教授、青木早苗文部科学省課長（メディア開発教育センター教授)、永當伸治氏（日立造船情報システム）が参加した。このパネル討論では、高等教育および社会教育における e-Learning の可能性、経済性、制度問題、教員研修、教育サービスの質等が議論された。ｅラーニングの研究者のみならず，教育行政の専門家や産業界でｅラーニングに携わる実務家が加わり，教育のあり方，マーケットの今後の方向性などが幅広く議論されたことは極めて意義深かった。

今回のジョイント・ワークショップにおいては、日独センター・ベルリンが主催し、教育システム情報学会が共催となった。そして、オーストリアのグラッツ大学と広島大学が支援、ドイツ認知科学会と日本教育心理学会が後援団体となった。このような多くの団体の協力によって、第１回のワークショップが盛況の中で終わったことに関係者に謝意を表したい。

３． 特色

今回のワークショップにおいて、次のような特色または意義を指摘することができる。

① 産官学の連携を図ったこと
② e-Learning について、工学的、教授学的、認知科学的、教育制度的、産業的、政策的な観点から議論したこと
③ 特にパネル討論では、多様なパネリストの下で、前述したように教育制度的な観点から e-Learning の意義、役割を議論したこと
④ 総括としての政策的奨励文書を作成したこと。
⑤ 会議において、国の政策担当者が参加したこと

などである。

４． 決議としての政策的奨励文書の内容

知識社会における能力開発のための要件として、e-リテラシーを含んだ知識とコンピテンシーの形成のため、次の事項を決議した。

① メディア・コミュニケーションと e-Learning の推進
② 情報格差（Digital Divide）の克服
③ 文化差を考慮した「知識社会」の定義と実現
④ テクノロジーとメタ・データの標準化
⑤ 初等中等段階から大学までの e-Learning の推進と支援、およびそれを利用した教師教育と新しい教授学の確立
⑥ 生涯学習のための戦略と新しい e-Learning の開発、そして企業の参加
⑦ e-Learning による文化間問題の克服と平和の支援
⑧ ヨーロッパと日本とのより緊密な関係の構築およびクロス・カルチュア形成のための e-Learning とメディア・コミュニケーションの活用。そしてそれを利用した学校、大学のグローバル化
⑨ ヨーロッパと日本との（特に若者の）メディア・コミュニケーション環境の確立
⑩ ヨーロッパと日本との相互訪問者に対するオリエンテーションや支援のための e-Learning とメディア・コミュニケーションの活用
⑪ 日本とヨーロッパとの共同研究・開発の推進
⑫ 次回は、2005 年に日本で第２回ジョイント・ワークシップの開催

５． 結論

初めてのジョイント・ワークショップを開催して、新しい時代に向けて、なすべきことの確認を行った。ネットワーク化はグローバルな世界を構築する駆動力になるが、技術的、経済的、制度的、文化的差異をどのように克服するかを具体的なレベルで解決していかなければならない。そのような認識を確認しあったということができる。最後に、日独センター・ベルリンの Angelika Viets 女史および Wolfgang Brenn 博士の甚大な貢献に感謝の意を表したい。

教育システム情報学会　英文論文誌　論文募集
（Vol.3，No.1，2004 年発行）

教育システム情報学会では，2002 年度から年 1 回定期的に英文論文誌を発行しています．今までに Vol.1，Vol.2（2004 年 2 月発行予定）を発行いたしましたが，質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容になりました．是非，多くの方々にご投稿いただき，革新的な研究成果，ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと考えます．

下記の要領で，Vol.3，No.1 への掲載論文を募集いたします．多くの皆様からの投稿をお待ち申し上げております．

■　論文種別：原著論文，実践論文

■　投稿締切：2004 年 3 月末日（投稿は随時受け付けておりますが，この期日までにご投稿をいただいたものに関しては Vol.3，No.1 への掲載の対象となります）

■　原稿執筆要領：下記の執筆要領に従って原稿を作成してください．なお，執筆要領の詳細は Web ページ（http://www.jsise.org/e-journal/cfp.html）を参照してください．

■　寄稿の手続き

・論文は他学会において査読中でないこと．そしてその主要部分が未発表であること．但し，国際会議，学会の大会，研究会等で口頭発表したものをまとめたものは投稿することができる．

・寄稿者は本会会員である必要はないが，本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用される．寄稿者が 2 名以上の連名の場合は，そのうち少なくとも 1 名が会員になれば投稿料に会員価格が適用される．

■　寄稿原稿の執筆要領

・原稿の構成：標題，著者名，概要，本文，参考文献，付録の順序とする．原稿は刷り上りイメージ（Vo.1 を参照）になるべく近い形で作成し，図・表も本文中に含めること．

・記述言語：英語のみ

・著者名：氏名と所属を書く．

・Abstract：150 words 以内でつける．また，その下にキーワードを 5 つ程度書く．

・本文：章・節・項，等の見出しをつけて読み易くし，それぞれ「1.」…，「1.1」…，「(1)」「(2)」…，「(a)」「(b)」…の順に区別する．

・参考（引用）文献：記述内容に直接関連のある文献は，主文中における該当箇所の肩上の（　）内に番号を示す．

（例）(1) Rockart, J. F. and Morton, M.S.S. :“Computers and the Learning Process in Higher Education”, McGraw Hill, New York (1975).

・制限枚数：原稿は A４判の用紙を使用し，10pt の Times フォントを基本として縦 24cm，横 18cm の範囲に 2 段組みの書式で，刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で印刷して投稿のこと．刷り上がりページ数は，原則として図表を含めて 8 頁以内とする．

・提出物：オリジナル原稿を PDF 形式または Microsoft Word 形式にしたものを電子メールに添付して JSiSE 英文論文誌事務局（jsise-e@fest.or.jp）へ送付する（ファイルサイズが 1M バイト未満），またはダウンロードできるようにする．その他のファイル形式や提出方法を希望される場合はお問い合わせください．

・その他：学術用語は文部省の規定があればそれに従うこと．また，学会名，およびその略称は学会指定のものがあればそれに従うこと．

■　問合せ先（事務局が移転しました！！）

・JSiSE 英文論文誌編集事務局　山口直子（jsise-e@fest.or.jp）
〒160-0012　東京都新宿区南元町 23 番地　公立共済四谷ビル５階
(財)科学技術教育協会内
Tel.03-5367-9511　Fax.03-3357-2727

・編集幹事　松居辰則（matsui-t@ai.is.uec.ac.jp）
〒182-8585　東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学大学院情報システム学研究科
Tel. 0424-43-5621　Fax.0424-89-6070

ｅ－ラーニング技術特別委員会
第４回シンポジューム開催報告

ｅ－ラーニング技術特別委員会
委員長　小松　秀圀

ｅ－ラーニングコンテンツの自作をテーマにしたシンポジュームが開かれました

ｅ－ラーニング技術特別委員会は去る１０月２７日(月)に東京、神田の東京電機大学にてｅ－ラーニングコンテンツの自作をテーマにした第４回シンポジュームを開催致しました。

プログラムは以下の通りで１００名を超える参加者を得て、賑やかに催されました。

１．講演　「著作権の常識」
　（社）コンピュータソフトウエア著作権協会　専務理事　　久保田　裕
２．シンポジューム「うまい自作コンテンツのテクニック」
　モデレーター；　岩手県立大学　　教授　　鈴木克明
　パネリスト　；　大原学園　　情報システム部　本部長　　西原　申介
　早稲田大学　　助教授　　向後　千春
　日本マクドナルド人事本部トレーニング部長　　下山　博志

シンポジュームの終了後には、これまでわかっていると思っていた著作権に対する認識が変わった、シミュレーションコンテンツの効果は期待できるので創って見たいなど多くの声が寄せられました。

また、このシンポジュームに毎日新聞が取材し、毎日新聞のインターネットサイトの毎日インタラクティブに紹介されました。

ｅ－ラーニング技術特別委員会では、２００４年４月に第５回のシンポジュームを計画しております。

2003 年度第 6 回研究会
発表募集のお知らせ

テーマ:『情報教育における評価と教員養成及び一般』

担当：情報教育部会
部会長／松永　公廣

開催期日：2004 年 3 月 13 日（土）
申込締切：2004 年 1 月 10 日（土）
原稿締切：2004 年 2 月 5 日（木）
開催場所：東京国際大学　商学部
〒350-1197　埼玉県川越市的場北 1-13-1
問合先・申込先：松永公廣
摂南大学経営環境情報学科
〒572-0074 寝屋川市池田中町 17-8
phone：072-839-9266 fax：072-838-6631
E-mail：matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

発表申込方法：
電子メール、Fax、手紙で下記の項目をお送り下さい.
（1）発表タイトル
（2）者名（登壇者に○）
（3）所属
（4）アブストラクト（200 字程度）
（5）連絡先住所，氏名，電話番号，FAX 番号，電子メールアドレス
（6）その他，発表に関するご要望

会費未納の方にご請求します。

会費の前納にご協力ください。

今回，未納の方のみに請求書と振込用紙を同封しましたので，ご納入のほどよろしくお願い申し上げます。請求書発行時（約 1~2 週間前）の行き違いについてはご容赦ください。また，不明な点についてはまことにお手数ですが，事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

■問い合わせ

教育システム情報学会事務局
〒661-8620　尼崎市南塚口町 7-29-1　　園田学園女子大学情報教育センター内
E-mail：secretariat@jsise.org　　※ 同封の振込用紙をご利用ください。

JSiSE　2004 年度研究会開催ご案内

研究会委員会　委員長　伊藤　紘二

2004 年度研究会の開催について，研究委員会からご案内します．会員各位には，奮ってご発表，ご参加下さるよう，お願い申しあげます．なお，学会のホームページでも，開催の詳細を，逐次お知らせ申しあげますので，そちらの方もご覧下さい．

第 1 回　組織内教育における e-ラーニングの新しい展開【担当：仲林，松居】

開 催 日：2004 年 5 月 28 日（金）9:00～18:00
開催場所：青山学院大学（渋谷）総研ビル 11 階 19 会議室
発表申込締切：2004 年 4 月 10 日（土）
原稿提出締切：2004 年 4 月 30 日（金）
発表申込連絡先：松居辰則（電気通信大学）
〒182-8585　東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学大学院情報システム学研究科
Tel.0424-43-5621　Fax.0424-89-6070
E-mail:matsui-t@ai.is.uec.ac.jp

第 2 回　e-learning 向け動的デジタル教材の制作と配信【担当：磯本，野崎】

開 催 日：2004 年 7 月 24 日（土）
開催場所：長岡技術科学大学
発表申込締切：2004 年 5 月 15 日（土）
原稿提出締切：2004 年 6 月 19 日（土）
発表申込連絡先：野崎浩成（愛知教育大学教育学部）
〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
愛知教育大学教育学部
Tel.0566-26-2609　Fax.0566-26-2510
E-mail：nozaki@auecc.aichi-edu.ac.jp

第 3 回　学習モデルの再考と知的学習支援システム【担当：小西，伊藤】

開 催 日：2004 年 9 月 17 日（金）10：00～17：00（予定）
開催場所：静岡大学情報学部（静岡県浜松市）
JR 浜松駅よりバス 20 分
発表申込締切：2004 年 7 月 16 日（金）
原稿提出締切：2004 年 8 月 31 日（火）
発表申込連絡先：小西達裕（静岡大学情報学部）
〒432-8011　静岡県浜松市城北 3-5-1
Tel.053-478-1454　Fax.053-478-1499（共同）
E-mail：konishi@cs.inf.shizuoka.ac.jp

第 4 回　インターネット新技術による学習環境の展開【担当：米澤，佐々木】

--JSISE と ET の共催による研究会--

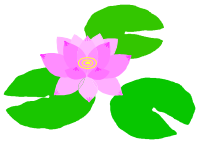
ET テーマ：**教育とコミュニケーション技術・システム【担当：樋川】**

開 催 日：2005 年 11 月 22 日(土)

開催場所：金沢学院大学

発表申込締切：2004 年 9 月 15 日（水）

原稿提出締切：2004 年 10 月 29 日(金)



発表申込連絡先：米澤宣義（工学院大学）

〒192-0015　八王子市中野町 2665-1

工学院大学八王子校舎情報工学科 5 号館 503 号室

Tel.0426-28-4724

E-mail：ct72058@ns.kogakuin.ac.jp

第 5 回　高等教育における ICT 利用システム--遠隔教育，生涯教育を含む--【担当：黒瀬，渡辺】

開 催 日：2005 年 1 月 22 日(土)

開催場所：東京

発表申込締切：　2004 年 11 月 15 日（月）

原稿提出締切：　2004 年 12 月 30 日(木)

発表申込連絡先：黒瀬 能聿（近畿大学工学部情報システム工学科）

〒739-2116　東広島市高屋うめの辺 1 番

近畿大学工学部情報システム工学科

Tel．0824-34-7000（内線 873）　Fax 0824-34-7011

E-mail：kurose@hiro.kindai.ac.jp

第 6 回　情報科教育法の実践と評価【担当：松永，西野】

開 催 日：2005 年 3 月 12 日（土）

開催場所：摂南大学

発表申込締切：2005 年 1 月 8 日（土）

原稿提出締切：2005 年 2 月 3 日（木）

発表申込連絡先：松永公廣（摂南大学経営環境情報学科）

〒572-0074　寝屋川市池田中町 17-8

Tel.：072-839-9266　Fax.：072-838-6631

E-mail：matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

2003 年度第 5 回研究会のお知らせ

テーマ:『グループコミュニケーションによる
学習を支援するシステム』

担当：インターネット利用教育部会
部会長／米澤宣義

インターネット利用教育部会の担当による、テーマ:「グループコミュニケーションによる学習を支援するシステム」を以下の要領で実施いたします。多数のご参加をお待ちしております。

★教育システム情報学会（JSiSE）
日時：平成 16 年 1 月 31 日（土曜）10：25～16：00
会場：工学院大学新宿校舎　２８階　第２会議室
問 合 先：米澤宣義
工学院大学八王子校舎情報工学科５号館５０３号室
〒192-0015　八王子市中野町 2665-1
TEL　0426-28-4724
E-Mail　ct72058@ns.kogakuin.ac.jp

■ プログラム ■

議題：グループコミュニケーションによる学習を支援するシステム
発表 30 分（講演 20 分+質疑応答 10 分）
担当：米澤宣義、佐々木整

10:25～10:30　開会挨拶　　米澤宣義（工学院大学）
10:30-11:00
（１）Communication SERVER MX、FLASH、XML を利用したプレゼンテーションシステムの設計
　米澤宣義・○新藤康正・藤田明彦（工学院大学情報工学科）
11:00-11:30
（２）内部エージェントの存在を考慮したコミュニケーションのモデル化
　岡　雄三（工学院大学機械システム工学科）
11:30-12:00
（３）同期対面授業を支援し学生による協調的問題作成を可能にする WBT の開発と実践
　○田中　充・高木正則・勅使河原可海　（創価大学工学研究科）

---次ページへつづく---

12:00〜13:30　昼休み

13:30-14:00
（4）KNOPPIX を利用したユビキタス実習環境
　○小菅貴彦・外川明子（日本電子専門学校コンピュータネットワーク研究科）
14:00-14:30
（5）SCCS IntraSite
　― 常時進化する学園イントラサイトの構築と実践 ―
　田村浩一郎（中京大学情報科学部）
14:30-15:00
（6）デジタルポートフォリオを利用したプロジェクト学習支援環境の提案
　海尻賢二・○小林智子（信州大学大学院工学系研究科）
15:00-15:30
（7）Web システムを利用したユビキタス協調学習の展望
　○畦地真太郎（朝日大学）
15:30-16:00
（8）シミュレーションを素材とした講義「システム設計」の設計と評価
　○松永公廣・松永ちとせ（摂南大学）
16：00-16：05　閉会挨拶
16：05　終了

新入会員の紹介

●新入会員（敬称略）

JSiSE-A0302051 長谷川　仁美	電気通信大学	準会員
JSiSE-A0302052 渡部　大志	埼玉工業大学	正会員
JSiSE-A0302053 石口　彰	お茶の水女子大学	正会員
JSiSE-A0302054 成瀬　喜則	富山商船高等専門学校	正会員
JSiSE-A0302055 岡根　江見	放送大学	正会員
JSiSE-A0302056 山崎　治	千葉工業大学	正会員
JSiSE-A0302057 宮澤　賀津雄	早稲田大学	正会員
JSiSE-A0302058 西郡　章雅	大阪成蹊学園	正会員
JSiSE-A0302059 辻　義人	東北大学大学院	準会員
JSiSE-A0302060 藤田　紀勝	四国職業能力開発大学校	準会員
JSiSE-A0302061 田中　貴博	青山学院大学大学院	準会員
JSiSE-IA030057 広末　泰	株式会社　エフ・シー・マネジメント	維持会員
JSiSE-IA030058 阿萬　聖	株式会社　アンビリカス	維持会員
JSiSE-A0302062 竹上　健	文教大学	正会員
JSiSE-A0302063 岩上優美	青葉学園短期大学	正会員
JSiSE-A0302064 竹井光子	広島市立大学	準会員
JSiSE-A0302065 田中　充	創価大学	準会員
JSiSE-A0302066 吉田賢史	甲南高等学校・中学校	準会員
JSiSE-A0302067 黒川清登	独立行政法人　国際協力機構	正会員
JSiSE-A0302068 井上　明	甲南大学	正会員
JSiSE-A0302069 吉見毅彦	龍谷大学	正会員
JSiSE-A0302070 小松川　浩	千歳科学技術大学	正会員
JSiSE-A0302071 川原慎太郎	海洋科学技術センター	正会員

2003 年度新入会員（2003 年 8 月 21 日〜11 月 20 日）

国際会議の案内

国際会議は，教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています．会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら，下記までご連絡下さい．また，実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので，そちらのほうもお待ちしております．

本案内はWWW（http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijsise/conf.htm）で見ることもできます．

新着情報 6 件

SID 2004: Social Intelligence Design 2004
開催日程:2004 年 7 月 3-5 日
開催地： University of Twente, Enschede, the Netherlands
論文応募締切:2004 年 3 月 1 日
URL: http://parlevink.cs.utwente.nl/sid04.html
e-mail: sid04@cs.utwente.nl

CATE 2004: The 7th IASTED International Conference on Computers
and Advanced Technology in Education
開催日程:2004 年 8 月 16-18 日
主催:IASTED
開催地： Kauai, Hawaii, USA
論文応募締切:2004 年 2 月 15 日
URL:
http://www.iasted.com/conferences/2004/hawaii/cate.htm
e-mail: calgary@iasted.org

ICALT 2004: 4th IEEE International Conference on Advanced Learning
Technologies
開催日程:2004 年 8 月 30-9 月 1 日
主催:IEEE
開催地： Joensuu, Finland
論文応募締切:2004 年 2 月 13 日
URL: http://lttf.ieee.org/icalt2004/
e-mail: kirsi.karjalainen@joensuu.fi

ITS 2004: The 7th Conference on Intelligent Tutoring Systems
開催日程：2004 年 8 月 30-9 月 3 日
開催地： Macei, Alagoas, Brazil
論文応募締切：2004 年 3 月 1 日
URL: http://www.its.ufal.br/

KES 2004: 8th International Conference onKnowledge-Based
Intelligent Information & Engineering Systems
開催日程：2004 年 9 月 22-24 日
開催地： Wellington, New Zealand
論文応募締切：2004 年 2 月 1 日
URL:
http://www.kesinternational.org/kes2004/
e-mail: mircea.negoita@weltec.ac.nz g

e-Society 2004
開催日程：2004 年 7 月 16-19 日
主 催 ： international association for development
of the information society (IADIS)
開催地： Spain
論文応募締切：2004 年 1 月 12 日
URL: http://www.iadis.org/es2004/
e-mail: es2004@iadis.org

再掲載情報 2 件

ED-Media 2004: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications
開催日程：2004 年 6 月 21-24 日
主催：AACE
開催地：Lugano, Switzerland
論文応募締切：未定
URL: http://www.aace.org/conf/default.htm
e-mail: conf@aace.org

E-Learn 2004: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education
開催日程：2004 年 11 月 2-6 日
主催：AACE
開催地：Washington, DC, USA
論文応募締切：未定
URL: http://www.aace.org/conf/default.htm
e-mail: conf@aace.org

国際会議案内文責　松原　行宏（広島市立大学）
E-mail：matsubar@its.hiroshima-cu.ac.j

■▼新体制がスタートします▼■

補欠選挙も終わり，岡本会長，磯本副会長，小松副会長を中心に，役員組織も理事 22 名，監事 2 名，評議員 24 名となりました．また，国際化委員会，日本学術会議・渉外委員会，e-pedagogy 創生委員会など新しい委員会も加わり組織構成も新しくなりました．
新しい気持ちで精一杯頑張りますので，会員のみなさまのご指導・ご協力をよろしくお願いいたします．

教育システム情報学会新役員等の一覧表

	新任者 （2007 年 7 月 31 日まで）	任期継続者 （2005 年 7 月 31 日まで）
会　長	岡本敏雄（電気通信大学）	
副会長	磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）	小松秀圀（NTT ラーニングシステムズ）
理　事	伊藤紘二（東京理科大学） 坂元　・（メディア教育開発センター） 矢野米雄（徳島大学） 永岡慶三（メディア教育開発センター） 溝口理一郎（大阪大学） 渡辺成良（電気通信大学） 永野和男（聖心女子大学） 山本　恒（園田学園女子大学） **福原美三（NTT-X） 伊東幸宏（静岡大学） 前迫孝憲（大阪大学）	赤堀侃司（東京工業大学） 清水康敬（国立教育政策研究所） 大槻説乎（前 広島市立大学） 対馬勝英（大阪電気通信大学） 竹内　章（九州工業大学） 菅井勝雄（大阪大学） 大下眞二郎（信州大学） 樋川和伸（金沢学院大学） **吉田　覚（日本データパシフィック） 高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校） 米澤宣義（工学院大学）
監　事	今栄国晴（名古屋音楽大学）	小荒井順（NEC ソフト㈱）
評議員	池田　満（北陸先端科学技術大学院大学） 三輪和久（名古屋大学） 村本　紘（金沢工業大学） 黒瀬能聿（近畿大学） 竹本宜弘（高崎商科大学） **渋井二三男（城西大学） **上月景正（コナミ㈱） 松居辰則（電気通信大学） 鈴木克明（岩手県立大学） ***西堀ゆり（北海道大学） ***小西達裕（静岡大学） ***宮地　功（岡山理科大学）	松永公廣（摂南大学） 家本　修（大阪経済大学） 山崎敏範（香川大学） 奥田富蔵（東海大学） *向後千春（早稲田大学） *西野和典（大阪電気通信大学） *平嶋　宗（九州工業大学） *横山節雄（東京学芸大学） **田村恭久（上智大学） ***松原行宏（広島市立大学） ***中村直人（千葉工業大学） ***本田敏明（茨城大学）

アンダーラインは，補欠選挙による新理事・評議員です
*印は 2001 年度の会長指名による評議員です
**印は 2003 年度の会長指名による理事・評議員です
***印　2003 年度規約改正後の会長指名による評議員です

■新しい学会組織構成と担当理事および部会・支部

会　長　岡本敏雄（電気通信大学）
副会長　磯本征雄（岐阜聖徳学園大学），小松秀圀（NTT ラーニングシステムズ）

●常置委員会・部門担当

（英文誌編集委員会）
担 当 理 事　伊藤紘二（東京理科大学），溝口理一郎（大阪大学）

（学会誌編集委員会）
担 当 理 事　磯本征雄（岐阜聖徳学園大学），竹内　章（九州工業大学）

（会計担当）
担 当 理 事　大槻説乎（前 広島市立大学），清水康敬（国立教育政策研究所）

（組織運営・規約検討）
担 当 理 事　大下眞二郎（信州大学），福原美三（NTT-X）

（研究会委員会）
担 当 理 事　伊藤紘二（東京理科大学），渡辺成良（電気通信大学）

（企画委員会）
担 当 理 事　永野和男（聖心女子大学），吉田　覚（日本データパシフィック），米澤宣義（工学院大学）

（国際化委員会）
担 当 理 事　永岡慶三（メディア教育開発センター），福原美三（NTT-X）

（大会企画委員会）
担 当 理 事　菅井勝雄（大阪大学），樋川和伸（金沢学院大学）

（顕彰委員会）
担 当 理 事　赤堀侃司（東京工業大学），矢野米雄（徳島大学）

（WWW 委員会）
担 当 理 事　対馬勝英（大阪電気通信大学），山本　恒（園田学園女子大学），高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）

（日本学術会議・渉外）＊新規事業検討を含む
担 当 理 事　伊東幸宏（静岡大学），前迫孝憲（大阪大学）

●時限専門委員会

総合政策特別アドバイザー　坂元　・（メディア教育開発センター）

（情報教育委員会）
担 当 理 事　高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）

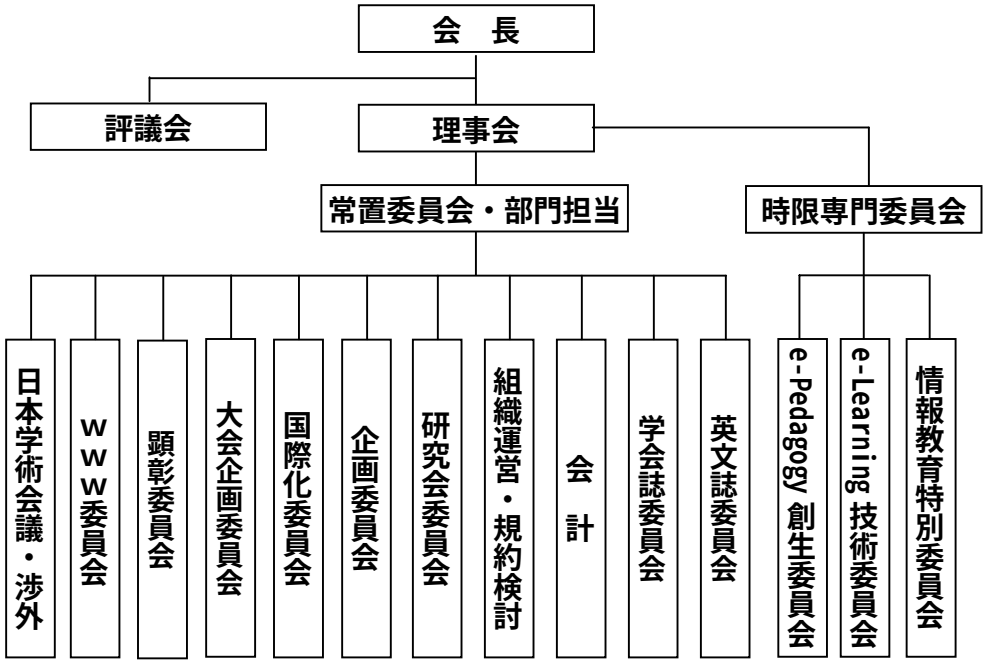
（e-learning 技術委員会）
担 当 理 事　小松秀圀（NTT ラーニングシステムズ）

（教育システム・e-Pedagogy 創生委員会）
担 当 理 事　菅井勝雄（大阪大学）

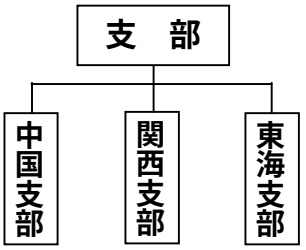
●各支部
（支部と　支部長）
東海支部　磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）
関西支部　高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）
中国支部　宮地　功（東京理科大学）

■新学会組織構成図

本　部



事　務　局



第 91 回 理事会・評議会 議事録

日　時：2003 年 10 月 18 日（土）　14:00～16:30
会　場：アルカディア市谷
出席者：理事
　　岡本敏雄，磯本征雄，小松秀圀，赤堀（委任状），伊藤紘二，大槻説乎，大下眞次郎，
　　坂元・（委任状），清水康敬（委任状），菅井勝雄（委任状），竹内　章，永岡慶三，
　　永野和男（委任状），樋川和伸，福原美三，矢野米雄，山本　恒，吉田　覚，渡辺成良

欠席者：対馬勝英，溝口理一郎

出席者：監事
　　今栄國春（委任状），小荒井

出席者：評議員
　　池田　満，伊東幸宏，渋井二三男，高橋参吉，松永公廣，村本　紘，米澤宣義

欠席者：評議員
　　家本　修，奥田富蔵，黒瀬能聿，向後千春，上月景正，竹本宣弘，西野和典，平嶋　宗，
　　福原美三，前迫孝憲，三輪和久，山崎敏範，横山節雄

　　：事務局
　　山本
　　：その他
　　松居（記録）

配布資料：（資料１）JSiSE　第 91 回理事会・評議会　資料
　　（資料２）JSiSE2003　次期担当理事等案
　　（資料３）研究会計画（伊藤委員長の資料）
　　（資料４）JSiSE 企画委員会
　　（資料５）関西支部　20 周年記念行事（案）
回覧資料：（１）新入会員
　　（２）後援依頼・承諾

議事：
（０）第 90 回議事録の確認
・（資料１）の pp.2～pp.4 に基づき山本事務局長（理事）より説明があり，原案通り承認した.

（１）新入会員の承認
・（資料１）の pp.5 に基づき山本事務局長（理事）より説明があり，原案通りこれを承認した.
・岡本会長より，現在の会員数が 1,202 名，日本教育工学会に続く規模に成長中であるとの説明がった.

（２）補欠選挙の結果についての報告
・（資料１）の pp.6 に基づき，樋川理事より，補欠選挙の手続きと結果についての説明があり，原案通りこれを承認した.

次ページへつづく

（3）新しい理事・評議員の承認

・岡本会長から，会長指名は選挙結果の順位通りに行うとの説明があり，これを了承した．

・1 位当選は 4 年任期，2 位当選は 2 年任期の認識に従うと，得票の順位と評議員の任期に矛盾が生じるとの指摘があり，岡本会長から，選挙結果と会長指名とを柔軟に取り入れるとの説明があり，これを了承した．

・新任の理事・評議員は次の通り承認した．

（4 年任期の新任理事）　伊東，前迫

（2 年任期の新任理事）　高橋，米澤

（4 年任期の新任評議員）松居，鈴木，西堀，小西，宮地

（2 年任期の新任評議員）松原，中村，本田

（4）2003 年新組織・担当理事などについて

・（資料２）に基づき，岡本会長より説明があり，原案通りこれを承認した．
現行の担当からの継続性，および補欠選挙結果を考慮して担当理事などを再構成したとの説明があった．幹事は各委員会の中で選定していただき，最終的には理事会での承認を得るとの手続きに関する説明があった．

・岡本会長より，各委員会の主旨や活性化，構造改革に関する説明があった．
副委員長以下，幹事，委員の選定において考慮していただきたいとの説明があり，依頼があった．

＋顕彰委員会には，論文賞だけではなく，大会のポスターセッション発表を対象とする賞，各賞の選定手続き検討していただきたい．

＋WWW 委員会を充実させるため，事務局主導の体制を組んでいただきたい．

＋WWW 委員会運営のための経費を検討していただきたい．特に，英語版（特に，入会手続きのページ）を作成していただきたい．

＋常置委員会の幹事を次回の理事会までに選定し，承認を得てほしい．

・岡本会長から，時限専門委員会について，情報教育委員会の委員長を西野評議員，副委員長を中村評議員に依頼したいとの提案があり，これを承認した．

・岡本会長から，教育システム，e-Pedagogy 創生委員会を発足させ，委員長に西之園氏（仏教大学），副委員長に野嶋氏（早稲田大学），本田評議員に依頼したいとの説明があり，これを承認した．

・岡本会長より，日本学術会議の連絡委員に伊東理事に依頼したい，との提案があり，これを承認した．

・矢野理事から顕彰委員会の副委員長を 2 名，幹事を評議員から選定したいとの申し出があった．

・岡本会長より，幹事，委員会の構成は担当理事に一任するが，負荷のバランスに関しては理事会・評議会で調整するとの説明があった．

・小荒井監事より，「企画委員会」と「新規事業検討」の差が不明確であるとの指摘があった．これに対して岡本会長より「企画委員会」はシンポジウムの企画，「新規事業検討」は出版企画などの新規事業開拓（出版など）を対象とし，教育システムハンドブックの出版，他学会と連携したイベントの開催などは新規事業の一例である，との説明があった．

・各委員会の主旨，守備範囲に関して様々な議論が行われ，今後も理事会・評議会で調整することになった．

・（資料２）の注釈が不明確であるとの指摘があり，理解しやすいものに加筆・修正することになった．

次ページへつづく

・教育システム・e-Pegagogy 委員会の委員長，副委員長に理事・評議員が含まれていないため．委員会と理事会との情報共有が困難であるとの指摘があった．これに対して，岡本会長より，担当理事を置いた上で，委員長・副委員長は各委員会に相応しい方を理事・評議員以外からも選出する．選定に関しては会長，副会長に一任していただきたい．これは時限専門委員会にも適応するとの説明があり，これを承認した．
・e-leanring 技術委員会のプロジェクトに関しては，委員長の小松副会長を中心にして検討することになった．

（５）各組織からの今後の方針について

(5-1) 編集委員会
・磯本委員長（副会長）より，(資料１）の pp.8 に基づいて報告があった．
・磯本委員長より，幹事は松居，松原，西野の 3 人体制であることなど，その他，和文論文誌編集委員会の活動に関する説明があった．
・山本理事（事務局長）より，委員会規定，投稿規程の見直しも行って欲しいとの依頼があり，編集委員会で検討することになった．
・委員会の名称を「学会誌編集委員会」に変更することを承認した．

(5-2) 英文誌編集委員会
・伊藤委員長（理事）から活動に関する説明があった．
・委員会の名称は「英文誌編集委員会」とすることを承認した．
・本日（10 月 18 日）に第 2 回編集委員会を開催し，1 回目の採否が決定したとの説明があった．
・伊藤委員長（理事）より，西之園氏（仏教大学）に「実践論文の有り方」を和文で執筆を依頼したいとの提案があり，これを承認した．
・国際ワークショップ（JWCL）の報告文の執筆を渡辺理事に依頼し，英文論文誌に掲載するとの説明があり，これを承認した．
・岡本会長から「創刊号を 200 部増刷」に伴う予算計上に関する説明と，広報の依頼があった．

(5-3) 情報教育特別委員会
・（資料１）の pp.8～pp.9 に基づき，岡本会長から説明があった．

(5-4) e-learning 技術委員会
・（資料１）の pp.9 に基づき，小松委員長（副会長）から説明があった．
・定例のシンポジウムは毎回 100 名程度の参加者があるとの説明があった．

(5-5) 研究会委員会
・（資料１）の pp.9～pp.10 に基づき，伊藤委員長（理事）から説明があった．
・（資料３）に基づき，伊藤委員長（理事）より，年間計画に関する説明があり，これを承認した．
・伊藤委員長（理事）より，研究会は明確な部会制での運営は行わないとの説明があり，これを承認した．
・小松副会長より，「組織内教育」という用語は不適切であるとの指摘があり，企業内教育研究部会で検討することになった（その後，「変更なし」であることを確認した）．

(5-6) 企画委員会
・（資料４）に基づき吉田委員長（理事）から今後の計画に関する説明があり，これを承認した．

(5-7) 広報・WWW 委員会
・岡本会長より，広報・WWW 委員会の重要性についての説明があった．

(5-8) その他
・（資料５）に基づき，高橋理事より関西支部の 20 周年記念行事の計画に関する説明があり，これを承認した．

2003 年度第 3 回研究会の報告

テーマ:第二言語の学習支援

-- 母国語以外の文字･音声言語の習得を支援する方法とシステム --

担当：言語・知識処理応用研究部会
部会長／伊藤　紘二

研究委員会言語知識処理応用グループは，学習を，コミュニケーションという視点から見て，あらゆる形での言語あるいは知識の取り扱いを取り入れた教育支援システムの研究を，いろいろな分野から学びながら活性化していく方向のテーマを主として担当しています．

去る 9 月 27 日（土），九州工業大学情報工学部（福岡県飯塚市）において，2003 年度 JSiSE 第 3 回研究会を担当開催しました．近年，音声言語処理技術とその教育応用に関する研究が盛んにおこなわれるようになっていることを考慮し，「第二言語の学習支援−母国語以外の文字・音声言語の習得を支援する方法とシステム−」というテーマで 開催致しました．参加者は，県内外の研究者４６名であり，大変有意義な研究会となりました．

今回の研究会では，自然言語処理をご専門とされている九州工業大学の遠藤 勉先生をお招きし，「対話支援型問題解決のための文脈情報処理」というタイトルで特別講演をしていただきました．また一般の研究発表として，3 件の日本語学習支援，2 件の英語学習支援，1 件の中国語学習支援および協調学習に関する発表が行われました．発表の内容は，単語学習を対象としたものから語用に関するものまで多岐にわたっていました．研究会終了後の懇親会では，ざっくばらんに意見交換がおこなわれ，解散となりました．

・開催日：2003 年 7 月 26 日
・場　所：名城大学天白キャンパス　タワー75

１．リズム表示と音声の読み聞かせを組み合わせた英語読解支援システム

秋葉裕司, 中村　宏, 佐藤　晃, 掛川淳一,
伊丹　誠，伊藤紘二（東京理科大学）

第二言語習得における表現獲得の目的にとって，音声言語習得とくに韻律の習得が大きな役割を果たすという仮説に基づき，日本人を村象とした英語学習支援システムの開発について報告する．まず，プロソディ（韻律）習得を支援する方法と現在開発中の実現法について述べる．ついで，音声支援を含む読解支援システムの構想，オーサリング，学習支援の構想を述べる．日本人による英語プロソディ（韻律）学習においては，英語の持つ強勢アクセントの等時性の習得が，日本語にはない特徴として大きな課題となる．そこで，学習者が，任意の位置からの模範音声読みを再生するときに，休止，及びリズムを構成する強勢とフット，構文情報をテキスト上で先行表示して，聴解とリピートをガイドするシステムを開発している．

２．英語長文読解学習のための適応的出題制御

國近秀信, 宇留島稔, 平嶋　宗, 竹内　章
（九州工業大学）

語学学習支援システムにおいて，学習者の理解状態に合致した質問を提示するためには，計算機が自動的に質問文を生成し，その中から適切な質問文を選択する機能が必要である．本論文では，類似問題のフィルタリング，質問の出現順序，質問の種類および質問の難易度を用いて適応的な質問系列を選択する方法について述べる．また，本手法によって得られた質問系列の妥当性と質問応答機能を連続して使用した場合の性能について評価をおこなう．

３．渡日前理工系留学生のための日本語教育

王　映哲（ハルビン工程大学），笠原ゆう子，渡辺成良，鈴木雅久（電気通信大学）

留学生のための日本語教育では、日常会話や小説、新聞などを教材として読書きを学習することが多い。しかし、理数系授業を高校までに学んだ理工系留学生は、特に理数系観念の説明を日本語

で聞いたり読書きすることに困難を感じる。本稿は渡日前留学生に対して、理工系日本語の遠隔教育を行うための日本語教育環境を構築することとし、そのための研究調査を行って、データベース作成などの有用な方法を提案する。

４．XML 上のマルチメディア漢字データベースと日本語学習のための教材作成支援システム

富永浩之，島田雅史，山下直子（香川大学），松原行宏（広島市立大学），山崎敏範（香川大学）

日本語教育においては，漢字学習が重要なポイントになる．漢字は，音訓の読み，意味，筆順，偏と旁などの構成要素，部首など，複雑で奥深い情報を持っている。コンピュータ支援の日本語数育システムを開発するには・漢字や熟語など，日本語に関する基本的で良質なデータベースが必須となる．本論では・日本語教育システムの中核として，外国人，小中学生，社会人などの幅広い知的関心にも応えられるマルチメディア漢字データベースを位置付け，そのＸＭＬによる構築手法を述べる。漢字の図形的側面による索引の利便性，学習段階に応じた必要十分な情報の抽出などを考慮し，字形構造や読みなどの属性を設計する．また，留学生を対象とした日本語能力試験への対応を念頭に，漢字検索システムや漢字チェッカーなどを組み合わせた日本語学習用教材の作成支援システムを提案する．

５．対話支援型問題解決のための文脈情報処理

遠藤　勉（九州工業大学）

本稿では･小学校1年算数のドリルテキストならびに教師（人間）との対話を相互参照しながら算数の問題解決を行うシステムに必要な文脈処理方式について述べる．まず，発話文の構造と発語意図，発話のおかれた状況，領域知識および話し手の注意状態からなる文脈情報を定義する．次に，文脈に基づく対話制御方式を提案する．システムからの発話文の生成では，問題解決過程の状況からの発話意図の発生と言語情報の抽出法や文脈情報を利用した修辞処理について，教師からの応答文の解析では，発話意図や省略要素の推定，発話中の言語表現と文脈情報との対応付けなどについて詳述する．

６．大学授業と連携したネットワーク型中国語単語学習支援システムの構築

馮　赫陽，許山秀樹，小西達裕，伊東幸宏（静岡大学）

本稿では、大学における初等中国語教育で利用することを前提とした中国語単語学習支援システムの構築について述べる。本システムは中国語教員の意見に基づき、教室外での単語学習を支援するものとし、特に日本人学習者の弱点である発音からの単語認識の訓練に重点を置く。学習意欲を高める工夫として、学習者どうしが達成度を競い合うネットワークゲーム的機能を実現するとともにサーバに全学生の学習履歴を自動的に蓄積することによって、教師がクラス全体の学習状況を把握することを支援する。また担当教員が演習問題や対象単語を比較的簡単に作成／編集できるようなオーサリングツーノを提供する。本システムは実授業における利用の準備中であるが、簡単な利用実験を行い、使用感などの評価を受けたのでその結果についても報告する。

７．協調学習におけるグループ活動の可視化モデル

佐々木大輔，河野幸雄，田村恭久（上智大学），姫田麻利子（大東文化大学），岡本敏雄（電気通信大学）

本稿では，協調学習における学習者間の相互作用やメンターの介入など会話レベルの動的モデルを提案する．学習者グループ内の発言によるグループ内の認知面と作業面の進展を2次元で可視化するDAPチャートを開発した．DAPチャートは，メンターによるヒント提示や作業指示などの介入動作もあわせて表現できる．また，学習者グループの状態表現を閉じた状態遷移でなく，認知面・作業面の進展を表現することにより，学習者グループの状態や学習プロセスをより明確に把握できる．

８．表現データベースをもつ日本語学習支援システムの提案

掛川淳一，石川賢太郎，海野俊介，藤井雅弘，伊丹　誠，伊藤紘二（東京理科大学）

学習者の履歴を利用した，文脈に関連づけられた言語用法の知識獲得を支援するシステムの提案を行う．第二言語学習において，単語や表現について，その使用法を学習する際，文脈の比較は重要である．提案システムでは，オーサは，読解を行うテキスト中にあらわれる単語，表現法についてノート作成を行うことができる．システムは，学習者に対して，教師，もしくは自他学習者のノートに登録された表現に関するアノテーションを参照させることで，学習中のテキストにあらわれる表現と同じカテゴリに属するものを比較させる．

◆◇ 研究報告書のお求めは ◇◆

研究報告書購入ご希望の方は，日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811），FAX（03-5814-5822）E メール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。
１部 1,300 円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000 円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507），E メール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6 回）。この際，ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当／伊藤紘二）。

維持会員紹介

MESSAGE

JSiSE 会員は、一般会員・準会員・特殊会員・名誉会員はもとより、維持会員である企業の方々の支えで運営をしています。
前号から引続き維持会員の紹介ページです。

■株式会社　大塚商会
〒102-8573 千代田区飯田橋 2-18-4　Tel　03-3514-7127
E-Mail　Hiromasa.Shirai@otsuka-shokai.co.jp（白井　博正）

大塚商会は、国内最大規模の独立系システムインテグレータとして、全国 25 万社にも及ぶ企業の情報化をサポートしています。具体的にはコンサルティングに始まり、ソフト開発、システム構築、そして導入後のサービス＆サポートまで、一貫した「ワンストップソリューション」を展開しています。特に JSiSE 会員の皆様にお役立ちができれば幸いです。今後共よろしくお願い申しあげます。

■株式会社エフ・シー・マネジメント
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-14-3　Tel　03-5209-5780　Fax　03-5209-5781
E-Mail　hirosue@fcm.co.jp（広末　泰）　URL　http://www.fcm.co.jp

当社はグループウェア First Class の販売をおこなっています。First Class はサーバー管理が簡単で、児童・生徒・学生もすぐに使える、わかりやすいソフトウェアです。教育現場で使いやすいグループウェアとして K12 から大学まで世界中で幅広く利用されています。弊社製品が教育のお役に立てることを願っています。